

データが示す出身者の想い

アンケートは、送付人数1,806人の内、580人から回答をいただきました。幅広い年代の皆さんに協力していただき(グラフ①)、出身地比率は町内出身者と町外出身者がほぼ半々でした。



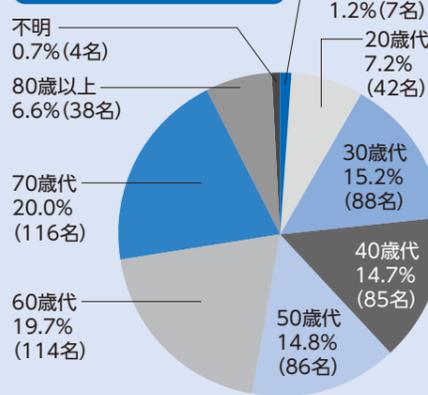
町内出身者のアンケート結果に絞って分析すると、6割近くの方が飯南町に対して良い印象を持っていることがわかりました(グラフ②)。細かく見ると、子育て環境に対しての良い印象の比率が高く、逆に生活利便性に対する悪い印象の比率が高い結果となりました。

現居住地への転居理由を尋ねた項目では、住宅購入、就職、結婚などのライフステージの変化によるものが半数以上を占めています(グラフ③)。

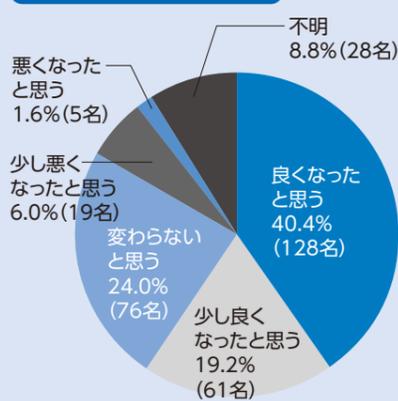
Uターンを検討しているか尋ねた項目では、「移住できない・難しい」「未検討」が8割近くと大半を占めており、住宅購入や仕事のことなどがあり、Uターンが難しい現状が浮かび上がります(グラフ④)。

最後に、Uターンに限らず、離れていても飯南町との関わりを維持していくために重要なことを尋ねた項目では、「飯南町情報の発信」が最多となりました(グラフ⑤)。

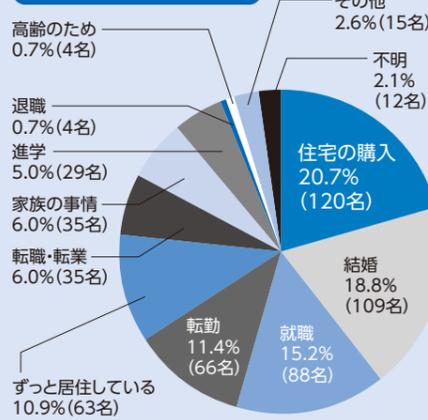
①年代比率(全回答者)



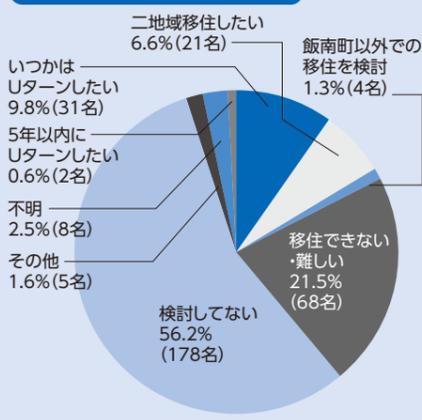
②町への印象(出身者)



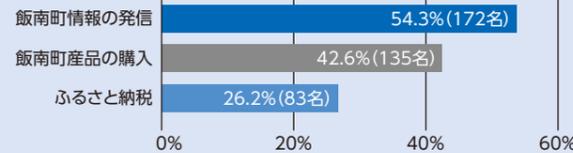
③転居理由(出身者)



④Uターン検討(出身者)

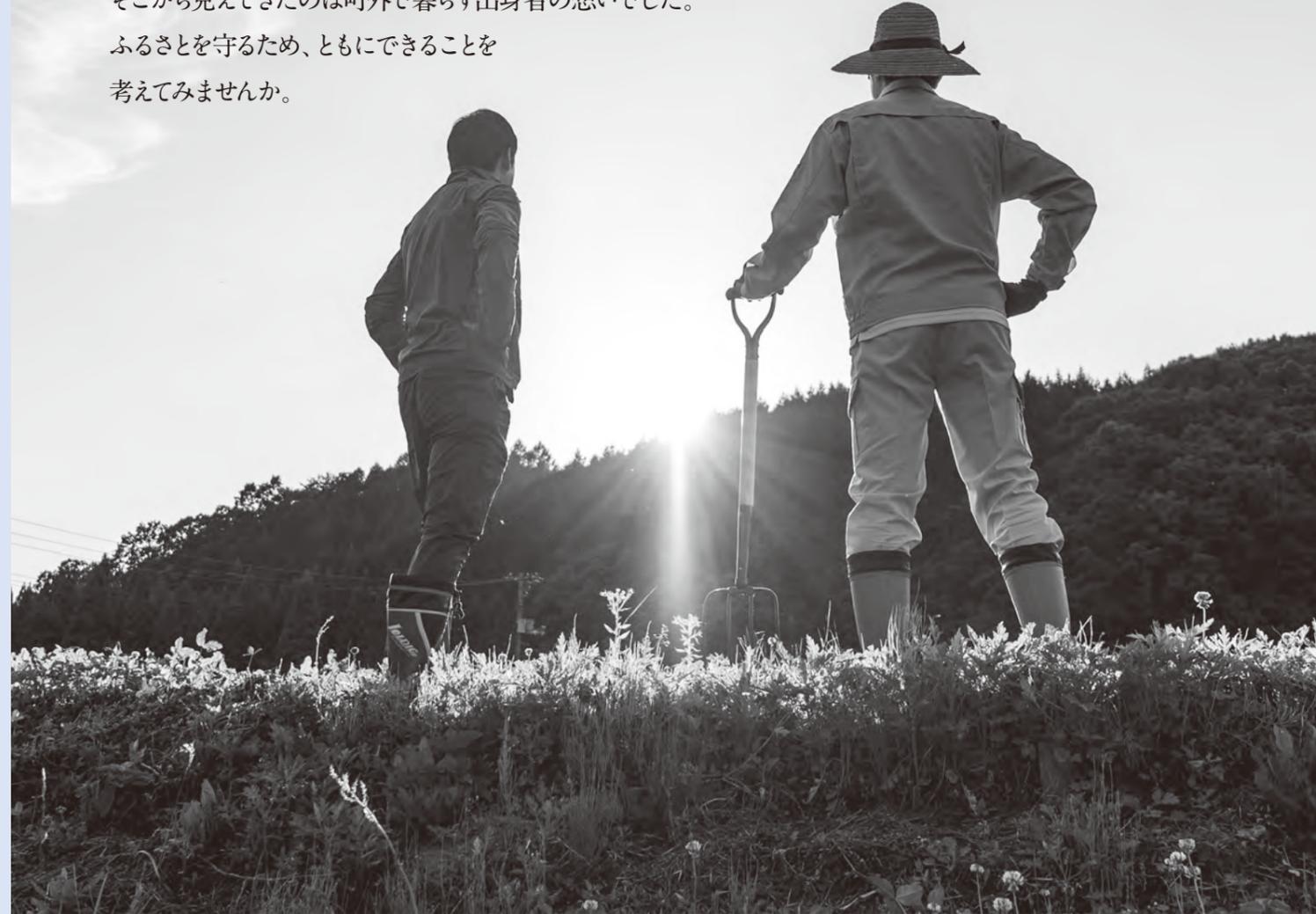


⑤関わりの維持・拡大に重要なこと(出身者) 複数回答可能(上位3つを抜粋)



ともに守る、ふるさとの未来

ふるさと応援宅配便に合わせて実施したアンケート調査。そこから見てきたのは町外で暮らす出身者の想いでした。ふるさとを守るため、ともにできることを考えてみませんか。



コロナ禍で途絶えた交流を取り戻すために

新型コロナウイルスが私たちの暮らしに大きな影響を与えるようになり、2年以上の月日が流れました。この間、移動制限を強いられる中で、離れて暮らす家族や友人に気軽に会うことができなくなりました。

こうした状況の中、町では町民の皆さんが町外で暮らす家族や友人に、農産物や特産品などを発送する際のお手伝いになればと、「ふるさと応援宅配便助成制度」を実施しました。

「飯南町になかなか帰ることができない人へ、ふるさとの想いを届けたい」という多くの皆さんに利用していただきました。

町では、このふるさと応援宅配便の発送機会を活用し、島根県中山間地域研究センターと共同でアンケート調査を実施しました。宅配便の発送先は、町民の皆さんとの関係の深いことから、コロナ禍で途絶えた町外との交流促進のための手がかりを探すためです。

離れたところからつながる

アンケートの結果、飯南町に対して良い印象を持っているものの、ライフステージの変化により、Uターンすることができない出身者が多くいることがわかりました。同時に、出身者は飯南町の情報を求めていることもわかりました。

「離れていても、ふるさとの状況が知りたい——」。

Uターンできないことと、ふるさとへの関心の有無は、別問題であるということが見えてきました。

このように、ふるさとへの関心を持つてくれている出身者に対して、飯南町に住んでいる私たちには何ができるのでしょうか。

町内には、積極的な情報発信に取り組んでいる地区がたくさんありますが、その中でも、特に出身者との交流に主眼を置いた取組を行っている地区があります。そこには、これからの交流のあり方のヒントが隠されていました。